春号
第317号

一粒の麦

社会福祉法人エデンの園
2020年４月18日

ひとつぶのむぎ

春のおとずれ

聖書のことば

一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままです。
しかし、死ぬなら、豊かな実を結びます。（聖書　ヨハネの福音書12章24節）

～　私の挑戦(CHALLENGE)　大きな法人の中のひとり　～

副施設長　甲　斐　さち子

桜の咲き誇るエデンの園に昨年４月１日、私は新たなる思いで未知なる世界へ入職した。

56歳からの再スタートである。前年から理事として週１～２回伺い施設全体の運営にも携わり、法人の特徴や歴史そして課題を見つめてきた。

課題を取り上げてみる

① 法人内の事業所が９か所に分かれており職員同士の交流や理解が不足し不満につながっている、いわゆる「隣の芝生は青く見える」状態

② 職員の働き方・働く時間もバラバラであり、顔を合わせる職員が限られてしまう

③ 不満や愚痴が多くなり、あちらこちらで人間関係にひずみがでている

④ その他　もろもろ・・・

私の性格（見て見ぬふり出来ない、黙っていられない）が沸々とわきあがる！！！‘何とかしたい‘早々に頭から離れない、よし改善するにはどうしたらいいだろう？

その１．法人全体の交流を深めよう

研修委員会を通じて、全員参加の研修を行うために、月４回（毎週１回）同じ研修を計画する、内容はワークショップを取り掛かりとして、コミュニケーション研修と称し自己紹介や名刺交換（個人で手作り）時には各事業所ごとのプレゼン大会（表彰・賞品付き）、各事業所に出かけてのおもてなし研修などなど、１年間を通じて毎月参加したくなるような研修を企画し実施してきた。

その２．全職員125名全員と面談をしよう！

令和元年８月から始めた個別面談、各事業所に時間調整をお願いしこの３月で半年かけた面談もようやくすべての職員と面談を終えた。

なかなか聞こえてこないグループホームの夜勤パートさん、日中短時間パートさん方の思いや意見、なぜ関係性が保てないのか原因追及の意味あいもあった多くの話を聞くことが出来、早急な改善も行ってきた。

職員の中には、今まで言えなかった様々なことまでカミングアウトしてくれた。125名もの職員がいれば年齢も性格も資格も経験もさまざまである、しかしその向かうべきベクトルは同じ方向に合わせなければバラバラになるのは当然である。

終わりに

自分の仕事・自分の職場に誇りとプライドを持つ為には、求められる職務を全うしてほしいと願う。

大切な法人職員のひとり一人と向き合い、不満やストレスを意見やアイデアにチェンジしてこれからも私の挑戦（CHALLENGE）は続く～

今年度もよろしくお願いします

●エデンの園（障がい者支援施設）

今年も桜がきれいな春がやってきました。でも、世の中はいつもと状況が大きく違っているようです。少し前はインフルエンザの流行が心配されていましたが、エデンの園（入所施設）に入ってくることはありませんでした。今は新型コロナウイルスが世界中に流行しているため、様々な活動が中止、もしくは自粛に追い込まれています。このような状況でも、エデンの園の利用者様は元気に生活されており安心しているところです。これに油断することなく、消毒や衛生管理をしっかりと実施していかなければならないと感じています。

エデンの園の入所施設では、障害や身体機能の状態などにより６つのエリアに分かれて日常生活やグループ活動を行う新しい試みをスタートさせました。単一の建物内をエリア分けして生活するこの試みは、県内でも例を見ないそうです。目的は利用者様が楽しく生活して頂くため、一人ひとりにきめ細かい支援を行うことです。感染症“０”とあわせて、生きがいを作り衣食住の目標に、頑張っていきます。

障がい者支援施設　小　野　淳　司

●エデンの園 ふれあい

桜も咲き、次第に暖かい季節となりました。「春」といえば出会いと別れの季節ですが「エデンの園　ふれあい」も私を含め新しい職員が加わり新装開店と言ったところでしょうか、今年度も「運動」「音楽」「軽作業」等を通してご利用者様1人1人と共に歩み、様々な体験、経験することを通し充実した生活を支えることが出来るよう職員一丸となり頑張っていきます。

エデンの園　ふれあい
サービス管理責任者　谷　口　博　孝

●エデンホーム三名

還暦お祝いを実施して！　～ホームだからこそできること～

現在ホームみらいは男性８名、平均年齢55歳の方が共同生活され、その中で今年２月に還暦を迎えた方がいました。還暦祝いとは、長寿になった初めてのお祝いと言われ、ホーム一丸となりお祝い実施に向け計画を立てていきました。当初はお店で食事会を行い、その後ドライブ計画を立て、本人や他の方々も還暦のお祝いを心待ちにされていましたが、コロナウィルスによる外出中止から急に計画を変更し、ホーム内でのお祝い会に切り替え行うことになりました。お祝いの席では赤いちゃんちゃんこと赤い座布団、ホーム内を装飾し雰囲気作りを行いました。全員で写真撮影、その後一人ひとりからお祝いの言葉をいただきました。本人も「チュッチュッチュッ」と一人ずつに手を合わせ感謝の言葉を述べられました。その光景はお祝いの言葉に対する感謝ばかりでなく、他界されたご両親へ感謝する気持ちも含まれているように映りました。食事会では、お祝いご膳とノンアルコールビールを準備し、お膳のメニューには刺身などの生ものもあり「美味しい、美味しい」と箸を止めることなく全員が笑顔で全て食べられていました。仮死状態で生まれ、家族も還暦を迎えるとは想像しておられなかったと思います。その中で、ホーム職員として人生の節目を一緒にお祝いできることは本当に嬉しく、ホームだからこそできる支援ではないかと感じました。ホームでは今後数年の間に三人の方が還暦を迎えます。今回の経験を活かし、これからも利用者、家族に寄り添った支援を提供していきたと思います。

エデンホーム三名　世話人　井戸川　清　寿

（それぞれの事業所からのご挨拶）

●就労継続支援Ｂ型事業所　つむぎ

つむぎは平成30年の4月に就労継続支援Ｂ型事業所として綾町に開所しあっという間に２年が過ぎました。この間に様々な形で地域の方々のご支援やご協力をいただきながら、利用者さんと共に成長してこれたことを嬉しく思います。現在「つむぎ」では、高齢者施設での清掃作業や綾町、国富町内の農家さんの畑やハウスでの作業や鶏舎でのニワトリのお世話。それから、室内作業として部品の組み立てや農家さんのところで作られたお芋の加工品の出荷用の準備作業等を行わせていただいています。農家さんの中には利用者さんが着用している「つむぎ」のユニフォームを見られて声をかけてくださった方もおられます。利用者さんの中には農家さんからご指名で作業に出かける方もいます。これからも地域の皆様に愛され必要とされる存在になれるよう頑張っていきたいと思います。

就労支援Ｂ型事業所　つむぎ　　藤　坂　由　紀

●麦わらぼうし（放課後デイサービス）

こんにちは！麦わらぼうしです。

今年も新しい仲間を迎え、ますますにぎやかになった麦わらぼうし。また、今年度より定員を15名に拡大して、さらに地域のニーズに応えていきたいと思います。

さて、今年度は「子どもがまんなか」を念頭におき、利用児の主体性の芽生えや獲得を目指したいと考えます。時には、大人が決めたレールから外れて、自分で考えたり工夫したりすることも必要です。「手を出しすぎず、見守る」ことを職員も訓練しながら、共に成長していたいと思います。

麦わらぼうし　児童発達支援管理責任者　寺　田　法　子

●エデンホーム森永

エデンホーム森永、青い鳥の姉妹ホームとして“ほのか”が誕生してちょうど１年がたちました。男女混合（男性４名、女性３名）で構成され、ショートステイの方の受け入れも行っているのが特徴です。まだまだ歩みだしたばかりのホームですが…「楽しいよ。でも職員さんがおっちょこちょい！？やね。しっかりしてください！」と利用者さんに愛され？叱咤激励されている今日この頃です。優しく且つ楽しい利用者さんと、エデンの園、先輩グループホームの方々から助けていただきながら成長していきたいと思います。利用者さんがほっと出来る家として、ほのかな香りを地域に放っていける存在になるように…。

ほのか　サービス管理責任者　五　島　千恵子

世界に はばたけ!!

日本代表に選出された平塚 天清さん

エデンの園から世界へ!!

障害者支援施設エデンの園に勤務している平塚天清さんが令和２年２月にオーストラリアで開催されたIVOR BURGE CAMPIONSHIP2020の日本男子代表としてプレーし帰国しました。

日本代表として選ばれたというビッグニュースは法人内だけで止まる事なく、新聞社からのインタビューや国富町から激励も頂き、本人以上に私達も驚きました。また、『広報くにとみ３月号』の特集で彼が大きく取り上げられ、この記事で彼が国富町の有名人になる事が、私達もとても誇らしく思えました。

そんな中、出発前にはオーストラリアに旅立つ彼を応援後押しするべく、エデンの園みんなで壮行会を開催されました。当の本人は少し緊張した様子でしたが、本人たっての希望で、会の最後には集合写真をとって送り出しました。

普段から仕事に全力プレーな彼は、オーストラリアの地でも大活躍だったそうです。一緒に働いている仲間がJAPANを背負って海外でプレーする事が私達にとってとても誇りに思います。これからもバスケットボールだけでなく仕事も一生懸命な彼の頑張りを微力ながら支えていけたらと思います。

法人事務局主任　光　森　勇　人

広報くにとみにも登場！

エデンの園で→
壮行会

国富町役場を訪問

最後はみんなで記念撮影

国富町長と記念撮影

相談支援の窓から ～その８～　『自立』

相談支援専門員　長　友　真佐子

「自立」この言葉を聞いて、みなさんはどのようなイメージを持つでしょうか？
「誰にも頼らず、生きていく」「就職してお金を稼ぐことができるようになる」こと、このようなニュアンスをイメージされた方が多いのではないでしょうか。
先日、ある研修に参加させていただき、その時の講師から、脳性麻痺の障がいを持ちながら小児科医である熊谷晋一郎さんの言葉が紹介されました。（その講師の方の研修では、必ずと言っていいほど紹介されるものです）

「自立とは依存先を増やすことだ」　　という言葉です。
一般的に「自立」の反対語は「依存」だと勘違いされていますが、人間は物であったり人であったり、さまざまなものに依存しないと生きていけないんですよ。“障害者”というのは「依存先が限られてしまっている人たち」のこと。健常者は何にも頼らずに自立していて、障害者は限られたものにしか依存できていない。依存先を増やして、一つひとつへの依存度を浅くすると、何にも依存していないかのように錯覚できます。“健常者である”というのはまさにそういうことなのです。
自立とは、依存先を増やすこと。

私は、この言葉を聞いて、とても気持ちがすっきりしました。面談時によく利用者さんに話しするのは、「私は、漁師さんが魚を捕って、市場に出し、おろしてもらわないと、魚を食卓に出すことができません。肉も、野菜も、米もです。服だって・・・。私たちは、気づかないうちに、誰かに頼って生活しています。そのはかのことも、全てそうです。福祉サービスも、その一つです。・・・特別なことではないのです。」と・・・。「親だから、自分がみないと」「A事業所のB職員でないとダメ」だとすると、親亡き後、職員移動、退職・・・いざというとき、依存先がなくなるので困るのはご本人ではないでしょうか？
先日、介護保険への移行のためグループホームを退居された方がおられますが、その方は、今までよりもっともっと理解者、支援者が増え、仲間も増え、今後も、いろいろなことにチャレンジし、経験を重ねていかれることでしょう。６５歳になっても、わくわく、ドキドキは終わりません。喜ばしいこととして、送り出したところです。
みなさんも、「自立とは」一度考えてみませんか？

土曜学校メッセージ

金　垣基牧師（宮崎めぐみ教会）、印慶子牧師（宮崎柳丸キリスト教会）、
海老原直宏（宮崎北聖書キリスト教会）、荒平大輔牧師（宮崎北聖書キリスト教会）、
浅野謙牧師（宮崎霧島キリスト教会）、山口英希牧師（宮崎清水町教会）

寄贈品・寄附金ありがとうございます。（12月～３月）

三輪満枝様、宮王丸郵便局様、岡山愛子様、湊玲子様、那須洋子様、横山武義様、上野聖子様
立山ふさ子様、黒崎一恵様、放課後デイサービスアウル様、横堀歩様、今村よういち様
エデンの園家族会様、都城点訳音訳友の会様

ボランティア（12月～３月）

家族会有志様、壹岐裕子様

編集後記

桜舞う季節となり、社会福祉法人エデンの園の事業所も、新年度を迎えました。今回のテーマを「事業所紹介」として、各事業所の新年度に対する思いを伝えました。利用者を真ん中にして関係者の方々の協力を仰ぎ、より良い生活や支援を行い、笑顔あふれるエデンの園にしたいと思います。これからも「一粒の麦」を通して、皆様にお届けして行きたいと思っていますので、宜しくお願いいたします。

エデンホーム森永　福　島　光　夫

■発行日　2020年４月18日　■発　行　社会福祉法人エデンの園　■発行者　エデンの園施設長　廣瀬　恵
〒880-1114　宮崎県東諸県郡国富町三名2621-5　TEL.0985-75-4936　FAX.0985-75-1160
http://miyazakieden/ec-net.jp/　E-mail miyazaki-eden@sirius.ocn.ne.jp